

令和4年度の運営総括及び来期の課題

当館は今年度で開館8年目を迎えることができました。「ウイズコロナ」で何ができるかをみんなで話し合いながら進めてきました。

コロナ禍で心が閉塞感のある人が多いと感じます。少しでも心の負担が軽減できるように日常の不満や不安を吐き出せる場所を提供し、職員みんなで「保護者の心に寄り添うこと」を一番に考えようと話し合いました。保護者や子どもが「心の避難所」として使ってもらえるような児童館作りをしていこうと決めました。

1. 乳幼児・保護者向け事業

(1) 総括

毎月、定例行事である『すくすくひろば』を企画・実施しています。親子のふれあい遊びや身体を動かすこと、絵本読み聞かせ、制作活動など、子どもの成長を感じられる場となっています。

コロナ禍で集まる場が減り、友達作りや悩み相談が難しくなっている保護者向けに『パパママタイム（しゃべり場）』を行いました。親同士で共感したり、質問したりしている姿が見られました。また、集う場では遠慮してなかなか自分の気持ちを話せない保護者もいるため、職員は保護者との1対1の関わりを大切にし、日頃の育児や家庭の悩みなどの傾聴に努めました。最後に保護者向けの工作を取り入れてリフレッシュできるようにしました。季節のイベントはとても好評でした。

1月から『ちびっこらんど』を企画・実施をしています。1歳を過ぎ、動くようになってきている幼児親子が安心して遊べ、交流できる居場所作りを目的し、遊戯室で思い切り体を動かして遊べるよう設定しました。

毎年、「子育てオーエンジャー☆みなみ」との連携による『わくわくひろば』を開催しています。今年度は、年長～小学2年生の保護者を対象に「自己肯定感を育むお話』をしていただきました。小学校入学に不安を抱えている保護者は少なくありません。不安な気持ちをお互い言い合い共有できる場を作り、少しでも不安が和らぐようにしたいです。今後も地域の要望に沿った企画を行い、地域の方々の繋がりを作る上で、継続していきたいです。また、今年度も、保育園から園外保育での来館があり、相互の交流を図ることができました。

(2) 課題

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、行事を縮小しました。外部講師への依頼を減らした他、保護者に需要がある季節の行事は参加人数や時間を分散し、企画を実施しました。保護者の心に寄り添い、たくさん褒め、自己肯定感があがるようにしていきたいです。また、行事の見直しを行い、地域の声を重視した企画を継続し、繋がり場となるように働きかけていきたいです。

「ウイズコロナ」で幼児親子の来館が少しずつ増えてきました。お母さんが運営に主体的に参加していた『ママの応援プロジェクト』を復活させたいと思います。子育てをしながら児童館でやりたいことを実現できるようお母さん方の声を聴き可能な限り応えていきたいです。保育園入園・小学校入学や子供の発達、家庭環境などの保護者の悩みについても情報収集し、今後も保護者と子どもの拠り所となる児童館を目指していきます。

2. 小学生事業

(1) 総括

幼児の頃から保護者と来館している子どもや園外保育で遊びに来た子どもたちが、小学生となってたくさん来館しました。また、定期的に来館してくれる常連の子どもが多いです。

今年度も引き続き『学習のつどい』を実施しました。保護者からの要望と児童館職員の思いから始まった学習のつどいも3年目になり、子どもたちの自発的な行動が見られます。子どもたちからは「楽しく勉強できてうれしい」「みんなでやるから頑張れる」などの声があります。毎週土曜日は「子ども達の週末の居場所」になっています。参加している子どもたちが中心となり、小学生向け季節のイベントを企画し、実施してくれさらに深い学びとなりました。子どもたちが意見を出し合う事でニーズに沿ったイベントを実施できました。

放課後児童クラブ『茨っこクラブ』が児童館を毎日利用し、保護者の迎えが来るまで過ごしています。支援員不足のため、児童館職員が支援員のサポートをさせていただいています。子どもたちの元気な声が響き児童館は活気に満ちています。思いきり体を動かして発散する子どもや本を読んだり工作を楽しんだりと思い思いに時間を過ごしている様子が見られます。動きが多い遊びは児童館職員も一緒に、静の遊びは支援員が見守り、協力しながら過ごしています。子どもへの関わり方などを互いに学びながら活動ができ、どちらにとってもプラスになっていることがあると感じています。

子どもたちが毎日来館してくれることでイベントも企画しやすく、子どもたちの声も反映しやすくなりました。今後も一緒に子どもたちを見守っていきたいです。

自由工作やカプラなどの制作が十分にでき、密を防ぎ遊ぶことができるよう事務室前スペースや裏玄関も配置換えを行い、引き続き利用できるようにしています。

今年は庄瀬地域の方から来ていただき児童館の畑でさつまいもの苗を植えました。優しく教えていただき子どもたちは積極的に参加していました。

また、下茨の「五九郎会」と生き甲斐農園で『じゃがいも掘り』『さつまいも掘り』の共催行事を行うことができました。多世代交流ができ自然の中でいきいきと活動していました。今後も安全安心を確保しながら、地域との交流を継続していきたいです。

(2) 課題

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動児童館を縮小したことにより、新飯田、庄瀬地域の小学生の利用が減少しました。今後の状況により、要望に応じて新飯田、庄瀬地域への移動児童館を再開したいです。

日頃来館している小学生の低学年、中学年の子どもたちが、高学年や中高生になっても継続して来館できるような環境を作っていこうと考えています。来年度は一緒に企画運営をしていきたいです。身体を動かすことはもちろん、子どもの主体性を育む内容や、じっくり考える内容、ゲーム性のある高学年向けの行事の企画を実施していきたいです。また、勉強・宿題をする場、共に考え学ぶ場の提供をしていきます。居心地のよい必要性のある居場所にし、幅広い年代の子どもが楽しめるように環境整備をしていきたいです。

今後は、より地域との連携を強めていき、意見を取り入れながら一緒に作り上げていきたいと思えます。

来年度もコミュニティスクールの一員として、白根南児童館が地域貢献できるよう努めていきたいです。

3. 中高生事業

(1) 総括

今年度は白南中学校の3年生の有志がよさこい発表をしてくれました。息の合った迫力のあるパフォーマンスでした。その後、小学生と一緒にドッジボールをしてくれ参加した小学生は大喜びでした。

また、白南地域在住の高校生が『進級お祝い会マジックショー』でマジックを披露してくれました。参加した子ども達は年が近いこともあり親近感があつたようでとても喜んでいました。初めて生でマジックを見た感激している様子もありました。

白根高校生が公民館共催で茨曾根小学校の行事のウエルカムボードを制作しました。「ペットボトルキャップアートパネル」をお借りし、児童館に展示させていただいています。子どもたちが好きなキャラクターで来館者は喜んで見えています。今後も高校生の取り組みを紹介させていただきたいです。

(2) 課題

幼児・小学生の頃から来館している子どもが、中高生になってからも来館してもらえるよう企画や環境を整備していきます。行事やボランティアなどで積極的に連携を図り、内容を充実させていきたいです。来年度は自主的な活動やボランティア活動を行う機会を増やし、今後の利用に繋がるように働きかけていきたいです。また、児童館職員と関わり、児童館を居場所として活用してほしいです。

4. 移動児童館

(1) 総括

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動児童館は縮小しました。

回数を減らしたので幅広い年齢の子どもたち対象に実施しました。庄瀬地域では庄瀬小学校の文化祭の参加者対象に「ハロウィン工作」「フォトスポット」を提供しました。新飯田地域では、コミュニティ協議会、「ふおうはあと」主催の「お寺であそぼう」で「ハロウィン工作」をしました。どちらも幼児～小学生・保護者の参加がありました。移動児童館が児童館の認知、来館に繋がっていると実感しています。

子どもや保護者、地域からの要請、ニーズには、今後も可能な限り応えるようにしていきたいです。

(2) 課題

ボランティアや講師の方々の方々の協力に加えて、職員の技術力向上に努め、体制を作っていきます。地域の子育て支援の先輩である「子育てオーエンジャー☆みなみ」との関係性も大事にしていきたいです。また、子どもたち自身の力を引き出せるような内容にしていきたいです。

来年度も、地域に根差した活動とネットワーク作りに取り組んでいきたいです。